キャンサーひょうご

ひょうごがん患者連絡会 ニューズレター No.3

発行責任者 中原武志　編集 田村・坂手・有本・石上・草野

〒651-2109 神戸市西区前開南町 1-2-1 阪神高齢者障害者支援ネットワーク内

TEL 078-976-5050 FAX 078-977-0224　http://hyogo-capa.net/

ひょうごがん患者連絡会の一団体として

あけぼの兵庫代表　有本　幸代

新しい年が始まり早や一か月が経とうとしています。皆さまもまたいつものようなせわしない毎日をお過ごしのことと思います。

昨年は、日本人のノーベル賞受賞者が誕生するといった朗報の一方、アメリカ発の世界金融危機が日本を震え上がらせた一年でした。

年が変わっても、社会情勢はますます見通しがつかなくなっていますが、私達がん患者は、人として一番大事な健康、いのちを優先してがん対策推進計画の目標に向かって牛歩のようにどっしりと着実に前進していきたいものです。

今までは、主に私たちのがん（乳がん）だけにしか関心がなかったのが、がん患者連絡会のメンバーに入れていただき、他の部位のがん患者会さまとの交流により、多様なご意見、情報交換が出来て大変勉強になっております。

ひょうごがん患者連絡会は、２００７年１１月に結成され２年目に入っています。

政府は規制緩和と云って、医療の面でも圧力をかけてきています。その一つが、前号に副会長の黒田さまが書かれてる「治療が一通り終了すれば、その人の現状を考えることもなしに一方的に在宅へと次の手段が図られます。それでよい人もいれば、苦痛に苦しみながら在宅で過ごしておられる人も少なくないのが現状です。」ではないでしょうか。患者を置き去りにした机上の空論に過ぎないと思わざるを得ません。

少しでも多く患者の声が届くように行政、医療従事者に訴え、患者も勉強しがん医療を変えられるよう皆で力を合わせていけたらと思っています。

今年も一日一日を大切に、皆さまが最善の治療が受けられますよう祈念致しております。

12 月度「がん患者会及び連絡会のあり方研修会」報告

「これからのがん患者団体のあり方について」を受講して

あけぼの兵庫　　有本幸代・川野紀子・木村名保美

昨年 12 月 18 日兵庫県民会館に日本医療政策機構理事でがん政策情報センター長の埴岡健一氏をお招きして、標記演題の講演をして頂きました。

講演内容：①がんの格差　②がん対策の好事例　③地域を動かすアドボケートたち

3 つの観点から、がん患者団体が活動を推進していくための有効な事例や具体的な方法を、多くのデータや資料を提示して分かりやすく説明してくださいました。

【１】<u>がんの格差とは</u>

・対象：罹患率、治療、治療成績、死亡率、検診率、喫煙率

・地域など：都道府県間格差、２次医療圏間格差、市町村間格差、
　　施設別格差、拠点病院内／外格差

・医療資源格差

・がん対策格差（やる気格差）

がんに関して地域格差があるので、先ず自分の地域を知るということが第一歩である。兵庫県内でも治療成績や死亡率などは、地域や 13 あるがん拠点病院によっても随分違う。兵庫県のがん検診率は、ワースト１。更に、検診を受けて要精密検査という結果が出ても２次検診に行かない人が多いのに、その人たちのフォローやアプローチをしていない。

兵庫県では、拠点病院で４割位が治療を受けているが、全ての患者をどれだけカバー出来るかが問題、拠点病院だけを整備してもほとんどの人が漏れてしまう。

兵庫県はがん患者が多いのにがん専門医は少ない。

【２】<u>がん対策の好事例</u>：県別がん計画力日本一の島根に学ぶ

格差がついている一方で、良い事例がある。好事例を見て、真似出来ることはないか。

“島根県のがん対策”◇内容の濃いがん計画　◇島根県がん条例　◇出雲市がん条例

◇島根県がん対策基金　◇がんサロン　◇総合的がん対策予算　◇島根県庁がんサイト

◇地域を挙げてがんに取り組むモデル県になる　と学ぶべき好事例が多い。先ず、患者がリード、次に政治が動いて行政が動いて、医療者が頑張ってメディアが取り上げそして民間も動いた。いわゆる三位一体が六位一体になって成功した。

島根県、高知県、新潟県、神奈川県はがん対策条例を制定した。100 の汗と涙で 1 歩の前進しかないのではなく、100 の成果がある大きな道が開かれるのが条例。条例は有効的である。

【３】<u>地域を動かすアドボケートたち</u>

がんの体制・対策を直すのは患者。何とかしたいと一番真剣に考えて、声をあげて世の中を変えていく患者達をアドボケートと云う。初めの一歩は小さいが、それが大きなうねりとなり広がっていく。がん対策推進計画の目標の早期達成に向けて努める。

◎今後の患者会のあり方の指針として非常に勉強になり、貴重な研修会でした。

ひょうご がん患者連絡会の活動概況を紹介します
(2008 年 11 月~2009 年 1 月の活動分)

事務局長　田村美生夫

2008 年 11 月 30 日：第 4 回がん患者大集会開催

「考えよう、私の町のがん医療」をテーマに、全国のがん患者らが参加して北海道から九州までの９会場をテレビ会議システムで結んで話合う第４回がん患者大集会が開かれました。関西会場は大阪成人病センターに近畿 6 府県の関係者約 300 名が集まり討議に加わりました。

今年は、昨年施行された“がん対策基本法”に基づいて策定された“都道府県がん対策推進計画”を実行していく初年度にあたり、新たな“患者中心のがん医療”への取り組みが始まったところです。この時期に日本全国のがん患者や行政、医療機関関係者約１５００名がテレビスクリーンを通して“私の町のがん医療”について３時間半におよぶ熱心な討議を行い、大会アピールを採択して成功裏に閉会することができました。

がん患者大集会では冒頭で、国立がんセンター 廣橋総長に基調講演をしていただき、引続いて埴岡日本医療政策機構がん対策情報センター長をコーディネーターに、内田がん患者団体支援機構理事、若尾国立がんセンターがん対策情報センター医師および前田厚労省がん対策推進室長をパネリストにお迎えして、全国 9 会場の患者が参加するシンポジウムを行いました。

廣橋総長の講演は「がん対策の展開と国立がんセンターのめざすところ」と題して、“総合的がん対策”と“質の高いがん医療体制”について報告をしていただきました。総合的がん対策は、がん予防・早期発見・がん医療の均てん化・がん研究の推進が 4 本柱であること。その必要性の背景は、「がんによる死亡者のうちの“三分の一はがん予防”で、“三分の一は検診と治療”で救命が可能である。“残る三分の一も治療と緩和ケア”で QOL を確保できるとの根拠によるものである。」と、がん対策推進の重要性を強調されました。

採択された大集会ｱﾋﾟｰﾙ「変えて行きます、見届けます、私の町のがん医療」の内容は以下です。

１、国はがん診療連携拠点病院の整備充実に努める。
２、都道府県は拠点病院を中心とした地域のネットワーク作りを進める。
３、都道府県は拠点病院における「がん相談支援センター」の整備充実に努めると同時に、患者サロンの設置を検討するよう要望する。
４、国、都道府県はがん検診受診率向上のための具体的啓発活動を行い、検診の環境整備を進める。
５、都道府県はがん対策推進計画を年度毎にチェックし県民に周知させる。

2008 年 12 月 18 日：第 1 回“がん患者団体のあり方”研修会開催

「これからのがん患者団体のあり方について」(講師：埴岡健一氏)の研修会を開きました。(前頁参照)

この研修会で、わたし達が行動する上で基本的に考えておくべき大切なこととして学んだことは、次の 2 点であると思います。

①「がん対策推進に当っては、県下の身近な地域の実態について、客観的なデータに基づいて正しく認識し、具体的な行動計画を立てて活動すること」

②「現在は先ず働きかける対象を拠点病院からとしているが、それでは患者の４割しかカバーできていないことを考えると、拠点病院周辺の主ながん診療病院（当面は県下の 44 病院を 2 次段階の対象として考えている）への働きかけも並行して進めるべきであること」です。

紹介頂いた「がん対策の好事例」を含め、来年度の活動計画策定に反映させていきたい

2009 年 1 月 15 日：第 15 回がん患者連絡会月例会開催

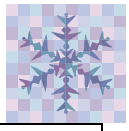
今年最初の月例会で主な決定事項は次の通りです。

① 2 月から第 1 水曜日午後に「フリートーキングの会」を開催します。第 3 木曜日夜の月例会と併せて月 2 回の定例ミーティングを持つことになります。

「フリートーキングの会」開催の目的は、月例会のみでは充分な意見交換ができないことから、会員同士の自由な意見表明の場として活用し、課題の共有化を図ることにあります。

当面は、来年度の活動計画を中心に話合いがもたれます。

② わたし達の活動を県下のがん患者に知ってもらうためのリーフレットを、切らさずに配布するためのフォロー担当者を決めました。この配布を通じて、各病院の相談支援センターや患者相談室とのコンタクトを深めていきます。



ひょうご がん患者連絡会行事予定（2009 年 2 月～4 月）

日　　時	行事・会費	テ　ー　マ	講　　師	場　　所
2 月 4 日(水)14:00	ﾌﾘｰﾄｰｷﾝｸﾞ会	―――	―――	生活創造ｾﾝﾀｰ④
2 月 19 日（木） 18:00~18:30	月例会	（2 月度例会）	―――	兵庫県民会館 ３０４号室
2 月 19 日（木） 18:30～20:30	公開研修講座 会員会費 500 円 一般会費 800 円	「兵庫県の がん患者会　及び 連絡会のあり方」	神戸新聞 論説委員 三上喜美男氏	同　上
3 月 4 日(水)14:00	ﾌﾘｰﾄｰｷﾝｸﾞ会	―――	―――	生活創造ｾﾝﾀｰ④
3 月 19 日（木） 18:00~18:30	月例会	（3 月度例会）		兵庫県民会館 ３０４号室
3 月 19 日（木） 18:30～20:30	公開研修講座 会員会費 500 円 一般会費 800 円	「先端医療 とは？」	先端医療ｾﾝﾀｰ 研究所長 西川伸一医師	同　上
4 月 1 日(水)14:00	ﾌﾘｰﾄｰｷﾝｸﾞ会	―――	―――	生活創造ｾﾝﾀｰ④
4 月 16 日（木） 18:00～20:30	第 1 回定期総会	前年度活動報告 及び ‘09 年度活動計画	―――	兵庫県民会館 ９０１号室

ニューズレターの編集について

このニューズレターは、５団体から応募いただいた編集委員による協議で編集し、会長の査閲を経て発行されます。

ニューズレターの構成は、第 1 面が各団体代表による取組み報告、第 2 面が各団体持ち回り執筆の連絡会関係の活動報告、第 3、4 面が事務局の活動概況報告とお知らせ記事となっております。

創刊号は会長と“日本がん楽会”が執筆し、第 2 号は副会長と“ゆずりは”が執筆しました。第 3 号からは加入団体の持回り執筆となり、“あけぼの兵庫”が担当しました。

編集後記の執筆は編集委員の持回りで、この号は“あけぼの兵庫”担当です。

編集後記

あけぼの兵庫　　有本　幸代

連絡会ニューズレター第 3 号は、“あけぼの兵庫”担当で執筆しました。

No.1 は中原武志会長が、No.2 は黒田裕子副会長が執筆された後をあいうえお順の各団体持ち回りによる執筆ということでトップバッターを任ぜられ、大変プレッシャーを感じました。拙い文章で読み難いと思いますがご容赦願います。

第 2 面は、日本医療政策機構理事でがん政策情報センター長の埴岡健一氏に講演していただいた“これからのがん患者団体のあり方について”の研修報告記事を掲載しました。この講演会に参加されなかった方の参考になれば幸甚に存じます。

第 4 号は“あじさい会”さんにバトンタッチします。よろしくお願い致します。